



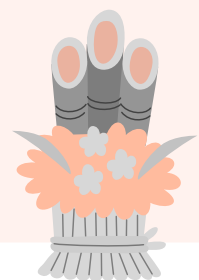
朝霞市長

富岡 勝則

とどけよう

元気を

朝霞から



新年明けましておめでとうございます。
皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の3月11日、未だかつて経験したことのない災害が日本列島を襲いました。岩手県、宮城県、福島県の沿岸部が津波にのみ込まれていくあの衝撃の映像は、今でも私の脳裏に鮮明に焼き付いています。しかし、被災された方々は、避難所から仮設住宅に生活拠点を移し、元の生活を取り戻そうと、力強く、そして懸命に努力をされています。

そのような方々を支援するため、昨年の市民まつり「彩夏祭」では、そのテーマを「とどけよう 元気を 朝霞から」と復興支援として位置付け、福島県から鳴子チームをご招待したり、被災地の特産品を販売するブースの設置や、復興支援チャリティーグッズを販売するなど、たくさんの方の元氣と、皆様の善意を被災地にお届けすることができました。皆様のご厚意に感謝申し上げますとともに、さらに本年におきましても、支援を行ってまいりたいと考えております。そのような中、昨年は、この震災を教訓として、岐阜県瑞浪市および長野県佐久市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結したほか、震災による建物被害が大きかった福島県須賀川市に職員を派遣し、災害復旧活動に従事させるなど、災害に強いまちづくりを進めてまいりました。

そのほかにも、今後5年間の朝霞市の行政運営の指針となります「第4次総合振興計画後期基本計画」を策定したほか、DV被害に悩む方からの相談を総合的に受け付けるため「配偶者暴力相談支援センター」を開設、また、障害のある方の地域生活を支援するため、あさか福祉作業所の定員を大幅に拡大したところでございます。

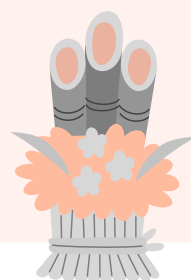
さて本年は、昭和42年に朝霞市が市制を施行して以来、45年という記念すべき節目の年にあたります。そのため、4月には市制施行45周年記念式典を開催させていただくほか、高齢者福祉施策の要となる第5期高齢者福祉計画の策定、また保育園における待機児童を解消するため、3園の民設保育園を開設いたします。さらに市民の皆様の学習意欲にお応えするための第2次生涯学習計画後期基本計画の策定や、教育環境の整備を図るため、引き続き小・中学校のトイレ改修工事を実施するなど、各種施策を計画的に実施してまいりたいと考えております。

本年も、〃生き活きタウン朝霞〃の実現に向け積極的に諸施策を推進してまいります。どうか、皆様におかれましても、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして実り多い年となりますよう、心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



朝霞市議会議長
利根川 仁志

年頭にあたり



明けましておめでとうございます。

平成24年の年頭にあたり、朝霞市議会を代表いたしましたし、謹んで新春のお喜びを申し上げます。

市民の皆様には、平素から市議会に対して温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年12月に市議会議員一般選挙により新たな議会がスタートしたところであります。私は、市議会議員一般選挙後の初議会におきまして、議員各位のご推挙により、議長の重責を担わせていただくこととなりました。新年を迎え、市政の発展と円滑な議会運営のため、誠心誠意努力させていただきます。決意を新たにしております。

さて、昨年の国難ともいべき大震災、巨大津波、原発事故と電力の使用抑制、風評被害の拡大は、日本全国に及び経済社会に未曾有の大災害をもたらしました。多くの方が被災され、復興までにはまだまだ時を要する状況であり、被災地の一日も早い復興を願うものでございます。

この復興のためには長期間に及ぶ復興対策を確実に進めていくことが必要であり、ばく大な予算が必要と言われて

おります。復興財源確保のための新たな負担が国家財政に對し大きな影響を及ぼし、ひいては地方財政にその影響が及ぶことが懸念をされており、さらに健全な財政の維持と行政サービスの質や市民の満足度の向上の両立が求められています。

市では、第4次朝霞市総合振興計画に基づき、さまざまな施策の実現に努めているところですが、私たち市議会といたしましても、施策の必要性を見極め、市民の皆様のご意見・ご要望の声を市政に反映させ、朝霞市の将来が活気あふれる魅力的なまちに進展していくことに全力を傾注していく所存でございます。

危機意識を持ちながら、積極的に議論を尽くし、議決機関としての機能を果たすべく、思いを新たに取り組む決意です。本年も、市議会活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。